

(地域密着型) 特別養護老人ホーム櫻ホーム西神
(認知症対応型通所介護) デイサービスセンターさくらさく
令和4年度 第1回運営推進会議議事録

日 時：令和 4年 4月 21日 (木)

時 間：10:00～11:00

開催場所：櫻ホーム西神 4F 多目的室

出席者：別紙参照

1 ごあいさつ

施設長あいさつの後、参加者の全員の自己紹介を行う。

2 議事

(1) 診療所の開設について

4月1日から診療所を開設しているが、当面の間は、ご入居者様を中心に対応し、将来的には、地域に開かれた診療所を運営していきたいと考えている。

その他、資料1に基づき説明を行った。

(2) 今回の新型コロナウイルス感染症の経緯について

今回のコロナのクラスター発生については、地域の皆様、ご入居者様、ご家族様をはじめ、いろいろな方々に、ご迷惑とご心配をお掛けし、本当に申し訳ないという気持ちでいっぱいである。

現在、詳細については、検証委員会を立ち上げ、報告書を作成しているところである。この報告書に基づき研修会などを開催することを予定している。当施設においては、今後、より一層、感染症対策を強化し、二度と同じことを繰り返さないよう徹底を図りたい。

その他、資料2に基づき説明を行った。

(3) ご家族様のリモート面会の再開について

資料3に基づき説明を行った。

(4) 事業計画について

資料4に基づき説明を行った。

(5) 活動状況について

資料5に基づき説明を行った。

ア ご入居者の状況

ご利用者概要について報告を行う。

(ア) 櫻ホーム西神：・入居申し込み状況について報告を行う。

(イ) さくらさく：利用状況(登録者数、平均介護度、平均年齢)、など、

イ 職員の動向(入退職状況)

4/1現在の職員の在籍者、3月退職者の報告を行う。

ウ 事故・苦情詳細

(ア) 櫻ホーム西神

a 事故：2～3月の分析結果について報告を行う。

b 苦情：3月に1件あったことを報告する。

2月末にご入居者様が転倒された。その連絡を職員がご家族様へ行っている際にご入居者様に聞こえるように「認知症」「ボケてきた」等の発言をしてしまった。それからご入居者様の言葉が荒さや元気がないように感じるがあると報告を受けたとのこと。その際にご家族様の対応を行った職員が謝罪を行い、今后再発防止に努めることをお伝えしたと詳細を報告する。

(イ) さくらさく

2月と3月に事故が毎月1件ずつ発生したことを報告する。

エ 研修・委員会活動

オ イベント活動

4月にご入居者様にお花見弁当を召し上がっていただいたことやユニットで誕生日会を開催したと報告する。

3 活動状況に係る評価及び要望・助言等

○小川委員：コロナワクチンの3回目接種が3月になったのはどうしてか。

【回答】当初2月に接種予定だったが、接種前に施設内でコロナの陽性者が確認されたため嘱託医の判断により中止となった。嘱託医によると、施設内がクラスター状況の中でワクチンを接種すると、ますます悪化するおそれがあるとのことであった。その後、嘱託医の指示のもと、終息後に接種を開始した経緯がある。

○小川委員：1月にワクチン接種が出来ていれば、このようなクラスターの発生が出なかったとも考えられる。ワクチンの接種を1月にするよう計画を立てなかったのは何故か。

【回答】嘱託医が助属する協力医療機関である「西北ハートクリニック」と協議したところ、①神戸市からの具体的な通知が遅かったこと、②ご家族との連絡調整などに対する時間が見込まれたこと、③3回目の接種は1・2回目のように神戸市において接種券を発行する取扱いでなく、原則としてご家族から接種券を確保する必要があったことなどから、2月接種となったものである。また、当時の神戸市老人福祉施設連盟の情報によると、2月に接種する施設が多いと聞いていた。

なお、現在、殆どの入居者のワクチン接種は終了しているが、新入居者様や新型コロナウイルスに罹患してから6カ月経過していない者は未接種である。

○小川委員：協力医療機の西北クリニックにおいて2月での接種でも問題無いとの認識だったとも考えられるが、他の病院だったら、このような惨事が防げたのでは無いか。

【回答】神戸市からコロナワクチンの供給が行われるが、今回は前回のワクチン接種の手続きを変更しており、西北クリニック側もワクチン供給状況などの情報がなかなか確認出来ない中、最大限の努力を行っていただいたと考えている。当時の状況から考えて、他の病院であっても同じ結論だったと思われる。

なお、1月時点での他施設のコロナワクチンの接種率はそれほど高くなかったと聞いている（神戸市老人福祉施設連盟情報）。

○小川委員：今回の新型コロナウイルスの感染経路を特定することによって、今後の対策に生かせる。施設において面接制限を行っている中での発生であることを考えると職員が持ちこんだものとも考えられるが、どのような事実確認を行っているのか。

【回答】疫学調査などについては、原則として保健所などの役割であり、専門的な知識がない当施設で行うことに対しては限界がある。今回、神戸市保健所において、感染源についての調査は行われなかった。

当施設での最初の陽性者は職員であるが、発症当時、当該職員は自宅待機をしていた経緯もあり、当該職員からとは断言できない状況でもある。神戸市保健所からは「今回のオミクロン株については、感染力が強く、どこから侵入してくるかわからないものであ

る。」との意見もいただいている。しかし、委員のご指摘の通り、面会を制限し外部との接触が制限されている状況などを斟酌すると、職員が持ち込んだものとの推論もなりたつ。

いずれにしても、今後とも、感染症対策を強化し対応していく所存なのでご理解をお願いしたい。

○福永委員：医療従事者は先にコロナワクチン接種ができるが、介護福祉施設の職員も早めのワクチン接種を実施することを強く行政等に訴えることはできないのか。

【回答】西区の施設長会議の中で施設単体ではなく、神戸市老人施設連盟を通じて神戸市などに要望を伝えている。今回のコロナの惨禍を繰り返さないためにも、機会があれば、各委員が所属する団体などを通じて、要望していただくなどの対応をしていただければ幸いである。

○小川委員：市議員もいるので、今後のためにも声を上げないといけないと思うが如何か。

○世良委員：今回、施設内で新型コロナウイルスのクラスターが発生してしまったが、今後、この教訓を基によりよい対応をすればと考える。このような体験をされた職員の皆様はこれまで以上の専門性を持った対応ができると思うので、前向きに捉えても良いと考える。神戸市などの行政に対する要望は、それぞれが所属する組織があるのでこれらの団体・組織から神戸市などに対し声をあげるのが、最善だと考える。

○納見委員：今回の新型コロナウイルスは予想もしていないようなところから出現するものだと考える。

○福永委員：今回開催される認知症カフェのようなものを開催してくれるのは本当にありがたいと思っている。今後とも続けてほしい。また、苦情報告にあったと思うが、本人に聞こえるように「認知症」や「看取り」を言うてはいけないことは介護の基本である。再発防止のために研修を行って欲しい。

○江口委員：今回、施設内で新型コロナウイルスの感染者が確認されたが、感染者を3階フロアで留められたのは、職員の努力だと思う。

診療所が開設されたが、従前との協力医療機関との連携がどうなるのかが気になる。

【回答】西北クリニックや協和病院等は協力医療機関ということには変わらない。診療所に関しては、まずは入居者の健康管理に努めて、その後、地域の方にも利用していただく予定である。

4 その他

- ・明日（4/22）に当施設の4階にて認知症カフェの開催を行うことをお知らせする。
- ・介護保険外サービスの料金についてご案内を行う。

次回開催予定：令和 4年 6月 16日（木） 10：00～11：00

出席者

(第三者委員)

世良 英雄	押部谷東ふれあいのまちづくりの協議会 委員長
小川 薫	月が丘自治会 会長
福永 君江	押部谷西民生委員児童委員協議会 会長
納見 年子	桜が丘ふれあいのまちづくり協議会 委員長
江口 裕美	押部地域包括支援センター

(櫻ホーム西神)

馬場 宏知	総合施設長
眞杉 佳憲	事務局長
内田創一郎	デイサービスセンターさくらさく管理者
上野久美子	看護師長
江角 早苗	主任介護支援専門員
緒方 裕一	介護主任
長田 知花	生活相談員
金子 茅央	生活相談員

欠席者

(櫻ホーム西神)

北野 諭士	生活相談員課長
-------	---------